提言第17号　中心静脈カテーテル挿入・抜去に係る死亡事例の分析－第2報（改訂版）
事例33
＜事例概要＞ 迷入 ① 80 歳代、心筋梗塞に対するPCI後、発作性心房細動、右胸水　胃癌術後、認知機能低下の患者。 ② 栄養管理、末梢血管確保困難のため、中心静脈ポート造設予定。 ③ BMI 20.9 kg/m^2。脱水あり。抗血小板薬を2 剤服用していたが約2 週間前から自己中断。 ④ 右内頚静脈より透視とリアルタイム超音波ガイド下で2 回穿刺。超音波の短軸像でガイドワイヤーの位置を確認し、ガイドワイヤーを20 cm挿入。カテーテルは透視下で進めたが気管分岐部付近で尾側への進みが悪く、そこで固定。逆血確認はしていないが、抵抗なく注入でき、透視下でカテーテルの位置を確認。翌日、療養型病院へ転院し、輸液ポンプで高カロリー輸液を開始。輸液開始翌日に胸痛、呼吸困難感あり。輸液開始　4 日目にX線で右胸水を認め、救急搬送。CT でカテーテルの縦隔内迷入を確認。胸腔穿刺で胸水1,000 mℓ排液。その後心肺停止となり、同日死亡。 ⑤ 死因は、ステント内血栓による心筋梗塞（疑い）。中心静脈カテーテルの縦隔内迷入による大量胸水が呼吸状態悪化を招いた可能性。死亡時画像診断（Ai）有、解剖有。